
黒契丹

涙傘

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒契丹

【Nコード】

N9191Y

【作者名】

涙傘

【あらすじ】

池袋の街のカラーギャング。
ダラーズ、黄巾賊、ブルースクウェア。そして、そこにまた一つ「黒契丹」という組織が出来ていた。そして、それを作った人間は、まだ小学六年生の少女だった。

とある廃工場

池袋某所の、廃工場。

通りから中の様子は伺えないようで、道行く人々はそこにいる存在に気づかず、街を歩く。

ときおり気づいて振り向く人もいたが、中にいる人間を見て急いで通り過ぎていた。

「本当に目立たないよな。この集団」

一人の個性的な服を着た少年が石を蹴って言った。蹴った石は傍にあったドラム缶に当たり、カッン、と音がした。

「そうじゃなきゃココまで人数は集まらなかったんじゃない？」

携帯を耳に当てながら、壁にもたれかかっている少女は言う。しかし繋がらなかったのか、不機嫌な顔をし、携帯をポケットに入れた。

「リーダーが来るまで何しときやいいんだ？」

「土でも掘つとけば？」

「金貨が出るまでか？」

「俺は手を貸さねえぞ」

「うっは！おまえら心冷たすぎだろ！」

「お、スコップあつたぜ」

「いやいやいや、素手で掘らせろよ」

「おまえも道連れにすんぞ。ボケ」

だんだんと喧嘩のような話になっていると、通りからスケートボードのガタガタした音がした。

途中でガシャンツという音がし、同時に「ぎゃあっ」という声が出る。

廃工場にいた少年らが外を見ると、そこには小学生ぐらいの少女が倒れていた。

肩より少し下の黒髪で、目は二重のパッチリした黒目だ。

少女が手を上げると、少年らは急いで手を貸した。

そして、もう一度少女をまじまじと見ると、こつ言った。

「お久しぶりです。リーダー」

とある少女

「へえ、そつか。ほとんどが抜けちゃったんだね」

「すいません。俺らがちゃんと止めていれば・・・」

「ああ、いいの。外出禁止になった私も悪いんだし」

小学生の少女に敬語を使う高校生の青年。

何も知らない人から見ると、非常にシニールな光景だろうが、彼らには少し歪な関係があった。

少女は彼らの元・ボス。彼らは少女の元・部下。

普通ならば立場は逆だろうが、少女は自らの特殊な体質と力を使って彼らを慕えていた。

常人ならありえない人間関係。

常人ならありえない武器の使い方。

少女はそれを器用に使い、数々のカラーギャングの抗争に勝っていた。潰した数は数え切れないほどあった。

「ねえ。ここ最近なにかあった？」

「あ、ダラーズの集会が開かれたんですよ」

「ダラーズ？なにそれ」

「新しいカラーギャングですよ。決まった色がなくて、ルールもなくて、リーダーも分からない。っていうやつです」

「ふーん。そりやまた変わったリーダーだね」

「黄巾賊とブルースクウェアの抗争が終わって平和だったんですけどね・・・」

「アッハハ！それは私達がいるからないでしょ」

「そ、そうですね・・・」

黄巾賊とブルースクウェアの抗争。

少女は実際関わってないが、聞いたあたりでは酷かったようだ。

ブルースクウェアのリーダー、泉井蘭が黄巾賊のリーダー、紀田正臣の彼女を人質にし、重傷を負わせたらしい。その後はブルースクウェアは消滅したが、紀田正臣のいなくなった黄巾賊に入っているらしい。

「泉井は暴力的だからやると思ったんだけど・・・まさか紀田君の彼女人質にするとは思わなかったなー」

二人とも知り合いなのか、思い出するような目をする少女。その目は楽しむような目でもあった。

そして、周りにいた人間達と思う。

「・・・やっぱり只者ではないな・・・と・・・」

「そっかぁ・・・じゃあダラズに入った人に挨拶しとかないとなぁ・・・」

少女は口の端をクイツとあげると、ドラム缶から降り、全員にこう言った。

「私、曾根琴羽は黒契丹のリーダーであり、今日、ココに戻ってきた」

「みなよ、コレからは抗争などせず、我らの思っままに生きていこうぞー!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9191y/>

黒契丹

2011年11月27日15時58分発行